第七十九回一宮市芸術祭参加

第69回　一宮支部展

支部次長　村田光柊

▼会期　令和六年十一月二十三日(土)～二十四日(日)
▼会場　一宮スポーツ文化センター

本年度も天候に恵まれ、第69回一宮支部展が十一月二十三日二十四日の両日、開催されました。

支部の先生方から一五五名のご出品を頂き、本部から、理事長の伊藤仙游先生、副理事長の岡野楠亭先生、加藤裕先生、松下英風先生、横井宏軒先生の賛助出品を賜りました。

フューチャーズ団体に於きましては、麗筆会、麗生会・光柊塾合同での二団体。個人では、横井静嘉先生ご社中から一名のご出品を頂きました。例年、各先生方の変わらぬご尽力ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、本年度は一宮支部創立七十周年に当り、記念展・私の逸品「宝の書」も併設されました。各先生方から多数ご提供頂きました貴重な作品に、ご鑑賞くださった皆様の魅了されているご様子が伺えました。

また、二十四日には、恒例のギャラリートークが行われ、本年度は支部相談役の則武穹先生が、担当して下さいました。

先生は、三十二才から髙木曽水先生の門下生となられ、三十四才で奈良県の今井凌雪、藤岡都徑両先生から漢字部門でご師事。中央展等、富岡鉄斎に基づく制作で活動。四十五才からは、中島藍川先生より篆刻のご師事。彫り続けて四十年。印刻数七五〇個。六十才からは、山口県の高橋博視先生に刻字のご師事。技術交流を続け、社寺仏閣や公民館の看板等を刻字。多種の分野に渡る書業の変遷をお話しして下さり、八十六才現在に至る書との向き合い方へと、続けられました。「書の表現は色々あるが、今は読んで楽しめる書を観て頂くのがいいなぁ。」先生は現在、読める漢字仮名交じり文で人生訓等を題材にされた制作に携わっていらっしゃいます。先生の活力溢れる結びのお言葉は、「滑って転んで、また起きて、ずっと、もっと、生きてやる。」「書をやっていて本当に良かった。」聴講された皆様が、感銘を受けながら、理想の境地を見直す糧となった貴重なお話、誠に有難うございました。

来年度の支部展は七十回記念展です。更なる一宮支部の発展を祈念し、先生方の多数のご出品並びに、ご尽力ご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。